

庭づくりがもっと楽しくなる

## “三島流” オープンガーデン講習会

「三島流オープンガーデン」は、玄関先などのちょっとしたスペースに鉢植えなどを飾り、道行く人に花の彩りを楽しんでもらおうという取り組みです。自分で楽しむ「見るガーデニング」から誰かと楽しむ「魅せるガーデニング」へ。皆さんも気軽に楽しんでみませんか。

| とき                        | ところ                    | 内容   |
|---------------------------|------------------------|------|
| 1回目：9月30日(水)<br>午前10時～正午  | 生涯学習センター3階講義室          | 座学   |
| 2回目：10月28日(水)<br>午前10時～正午 | 参加者の中からモデルケースとして選出したお宅 | 現地指導 |
| 3回目：12月18日(金)<br>午前10時～正午 | 生涯学習センター3階講義室          | 座学   |

対象・受講料 3回とも参加できる人・無料

講師 岡部俊彦さん（ふじのくに花の都しずおかアドバイザー）

申込み・問合せ 8月28日(金)までに、水と緑の課（☎983-2642）へ。



▲講師による現地指導の様子

みんなで花を植えよう

## ガーデンシティみしま「花街道1万本ジニア大作戦」参加者募集

花街道に1万本のジニア（百日草）を植えます。秋には、とてもきれいな色とりどりのジニアが咲き誇ります。お誘いあわせの上ご参加ください。

とき 9月6日(日)※少雨決行・雨天中止

集合場所 かわせみトンネルポケットパーク（若松町）

集合時間 午前7時45分

※市役所から送迎あり。7時15分に市役所正面玄関にお集まりください。（要予約）

実施時間 午前8時～9時30分ごろ（予定）

実施場所 谷田幸原線花街道（五十路大橋付近）

解散時間 午前9時30分ごろ（予定）

対象・持ち物 どなたでも・作業用手袋、帽子、タオル、飲み物（各自暑さ対策をお願いします）

申込み・問合せ 8月31日(月)までに電話で水と緑の課（☎983-2642）へ。



▲ジニア植え付け作業の様子

## 平成27年度「道路等里親制度」合意書調印式について

このたび、道路の美化活動を行う団体として、新たに山本建設株式会社が「三島市道路等里親制度」に参加することとなりました。

この制度は、きれいな街、きれいな道、快適な道路空間を創ることを、みんなで目指してみんなで始める道路美化システムです。地域の人たちが、道路・公共空間の清掃美化を行い、市が活動団体の取り組みをサポートしていきます。

今回の調印における山本建設株式会社の活動区域は、南二日町地内の市道南二日町中島線（旧・下田街道）

沿い周辺です。

問合せ 土木課（☎983-2636）



▲平成27年度「道路等里親制度」合意書調印式の様子

## 移りゆく時代の おもちゃ —モダンな大正時代—

今回は、現在開催中の企画展「子どもとあそび」の資料の中から大正時代のおもちゃを紹介していきます。

明治時代以降、日本では西欧化が進み、生活様式も変化していききました。大正時代は都市部に百貨店が建ち、多くの雑誌も刊行され、大衆文化が花開きました。衣食住は洋風化が進み、洋服・洋食が普及しました。この時代、産業や経済の発展とともに、西洋文化や商品なども国民の間に広がりました。また、第一次世界大戦の影響により、玩具王国ドイツが戦火に包まれたため、日本の玩具は世界に進出・発展を遂げました。日本経済が成長する中で、昔ながらのあそびや、木製・竹製・紙製などの玩具がある一方、めんこ・ペーゴマ・ビー玉・おはじきが流行し、ブリキ・セルロイド製の玩具が世に出てきました。大正時代は、こ

どもたちのあそびが多様化していく時代でもありました。「セルロイドのおもちゃ」

日本人は舶来ものに関心が高く、セルロイド製のキューピー人形が流行しました。写真①は、セルロイドで作られた、ウサギの人形です。ブリキ製の乳母車に子どもが三匹乗って歩いて親子で散歩しているようです。「ブリキのおもちゃ」



▲写真①乳母車とうさぎの人形

道路や交通機関が整備され、電車・飛行機・自動車といった動く玩具も普及しました。写真②は、ゼンマイ式のブリキの車です。乗り合いタクシーでしょうか、洋風の服を着た親子と、その横には中国風の人々、裏側には洋装の子どもと和装に日本髪の女性が乗っています。



▲写真②ブリキの車

ります。明治・大正時代と次第に発展を遂げた日本の交通網は、汽車・市電（路面電車）・タクシー・バスと徐々に市民の足の幅を広げていきました。大正十二年（一九二三）、関東大震災により東京の交通機関は壊滅的な被害を受けましたが、これにより自動車も普及します。写真③は、震災の影響を受けていない大阪で、大正十二年に発行された『汽車ト乗物』という絵本です。そこには黒い煙を出して走る汽車、道路を走る市電、その横を通る車など、この時代に活躍した乗物が描かれています。市電の後ろには、洋風の建物も建ち、街並みの変化が分かります。



▲写真③教育絵本『汽車ト乗物』

企画展は、九月二十三日（水・祝）まで楽寿園内郷土資料館一階企画展示室で開催中です。



三島の村名②  
やすひさ  
安久村  
(中郷地区)

安久村は現在の中郷地区、函南町との境に位置します。安久という地名の由来は、地元では「ヤッサー」と発音し八つの沢からきているとも、最初に村を開いた人の名前とも言われています。

安久荘または安久郷として中世からこの名を確認でき、天正十八年（一五九〇）の小田原攻めの際には豊臣秀吉から安久郷ほか九カ所宛てに、豊臣軍の行動を規制して治安維持を保証する内容の掟書が公布されています。江戸時代以降に安久村となり、明治二十二年（一八八九）に中郷村、昭和二十九年（一九五四）から三島市となりました。

安久では、源頼朝の代参として征夷大将軍の装束で三嶋大社に詣でる行事が鎌倉時代から明治初頭ごろまで行われており、代参する人のことを「頼朝」または「在庁」と呼びました。参詣で通った道は在庁道と呼ばれ、一部は拡幅されて現在の国道一三六号となりました。



▲豊臣秀吉発給の掟書（天正十八年）